

の出席者は何れも學問経験豊饒な士に
特に國家政策の發言に際せるもの土
のみならず論議する所必す背脊に中り
觀察する所必す眼光背に據るもの
あらん、京城市長は、將に朝鮮開發の
爲めに大膽計畫を傳へんとする、有力な
る紳士の大團體を如何に就て誘遇せん
とするか、吾人は京城市長が事つて賢
合大會議の成立を希望し且其代表員
の一に對して、誠意を拂ひ出せる限
りの便宜を與へ、以て歡迎の本旨を表
し、多數の紳士の胸中に寸毫も不満の
念を抱かざるの準備あらんことを切望
して抱きまじふ也。

吾人と感とを同する當地富な有志は
十八日夜商業會議所樓上に集會し、一
行の歓迎に關する事項會議を催まし、二十
九日午後四時某福宮に於て、日韓人聯
合大歡迎の宴會を開くことを決議せり
と、眞の機宜を得たる決議と云ふべし

ハは京城市民が此決議を賛賞するど

るは言ふを得ず抑も立法の効果は完全なる實現に在りて民福の増進を期すべし所以は遂用其宜しきを得ざるに在り常に商取引實施に提供し事に應ずる其弊案を撲へるに於て特に慎重者の此の點に注意せられん事を望む云々

▲**業者朝鮮視察** 東京 物産同業組合にては四十金子之朝鮮視察團を組織し來月三日新橋出發渡鮮の途に就く釜山若くは同月五日なり

▲**内地鐵道と朝鮮警官** 鐵道院は朝鮮總督府警官が公務にて内地旅行する場合は乘車券を平減せることとなり警視以上の高等官は一割警視官は二等巡査は三等の半減乘車券と交際す

▲**寺内總督の奉告** 寺内總督は明廿日午後六時新橋發伊勢大廟、櫻井、吉野宮、應仁天皇に孝天皇の御陵に朝鮮併合の奉告のため發拜とな

大に其類を興にするを以て出来
たれ、感んに殊に熱誠を盡めて献
け、其れも口に於て之と唱へ、
口大兵衛氏、隊長となり、準備案を
△會費開期會場
せる結果、會費は一人二圓五十錢
期は二十九日午後二時を以て
集合し、二時開會に決し又會場は
慶會樓を充つる事となり、而し
は千餘の客に達すべき勿論、
車馬に手運と生ぜざる様様にて
見物し、先づ内地二百五十名、
五十名、客側百名として豫算と
も清楚な、趣好を以て設備すべ
り又其一行は内地に於て孰れも
名ある紳士紳商のみなれば、
位置に頗る相當の禮儀を保ち、
らゆとて服裝の如きも通常禮服
事とせし、餘は之に類す。
△準備委員數組

迎ふべき
 新て山
 提出し
 を協議
 とい開
 會員は
 景福宮
 て會員
 なるも
 少數に
 鮮人百
 立て最
 き密な
 錚々の
 社會的
 るべか
 費用の
 を囑託
 所

土地の權利は消滅し、
土地を使用したるときは其權利を行使する
土地の時期に於て起業者之を取
得る土地に存する他の權利の行使
用の期間之を停止すべし使用
十九條 規定に依る使
場合を除くの外起業者は收用又
用之時節迄に補償金を申請し
すべし但し補償金は之に足ら
ざる場合は其の不足を供託すべ
し
關係人は收用又は使用の時節迄
起業者引渡し及物件を移
引渡す
二十條 起業者前條の場合又は
爲と爲さざるとき朝鮮總督府の認定
を以て及地方長官の裁決に其の請
求を失ふ但し關係人が損害賠償の請
求を爲さざるときを妨けず(未完)

任群聯台會議案一

商議聯合會會議案二

一開會第二十回朝鮮商業
聯合會に各地會所より提出せ

て彼の底意味の悪い笑を
 長い顔で行務を指揮し
 古癪と言へるし、丈付實地
 敏腕の間に甚だ高い。

常兩會員數既に六千四百餘
 は續々申込り来る由なり、以
 旬當地に開催すべき同會朝
 同總會までは少くとも一万
 へしと。

在鮮商議會出
 別報朝鮮會議所聯合會に出
 員の氏名左の如し

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| △京 | △仁 | △釜 | △元 | △山 | △鮮 | △鎮 | △浦 | △邱 | △清 |
| 城 | 川 | 山 | 山 | 浦 | 浦 | 浦 | 浦 | 浦 | 津 |
| 商會 | 商會 | 商會 | 商會 | 商會 | 商會 | 商會 | 商會 | 商會 | 商會 |
| 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 | 頭 |
| 中山 | 小 | 羅 | 森 | 山 | 高 | 川 | 岩 | 青 | 青 |

[illegible][illegible][illegible]

ては、公債を募集せずして、借
済みとするのは姑息の道方
増進に應ずるべし。總督府の歳出
の増加を要せしむるに至るべ
くは、國庫の空乏を以て、保
障の爲め、銀行の貸付を要す
るが、爲政者は胸に手を置き
て、其の爲めに、銀行の貸付
を要するは、國家の恥と爲す
べし。故に、銀行の貸付を要
するは、國家の恥と爲すべし。
又、個人は、無資にして、集
併し、保護、特許を有せざる
者も、個人は、日々凋落しつつある
ものなり。故に、銀行の貸付
を要するは、國家の恥と爲す
べし。故に、銀行の貸付を要
するは、國家の恥と爲すべし。

「ヤフタモツチの末が死ぬの切れぬの
云はずに傳人の一生を安葬にして
下さいれ納さんを本宅に入れる
として異存はないが考へて御覽、七

我輩仲間も居れば舅小姑もある何ん
 でも口を入れる親族もある夫れの辛
 の出来なけれ前さんとは思はないが
 の憂う目を見せものが可憐くもわれ

又、將來の爲めでない、れ前さ
の考へでは落着はへなかつたら、誰れ
何んと言つたつて、拂ふものかと思ひ
しょうが、大抵は元金、外から
つたもの、難癖つけて虐待
とは知れてゐる、左様ならば、何人とも
面白くない、又、候自暴狂びでも、初め

一人のね、誰さんの味方が夫れでは、
 ずい矢張り勝しいことに成る、意地
 しては左様もあらうが此の私に任
 ぞ、れやすに代つて話に参へた御分
 のれ言葉、私が嫌だを申ししたもホン

麗に承知したので先方からは
 金三千圓に二千圓に相當する田地を
 与へて云ふ、不要なと云ふ、取つて思
 へば區劃が附かねと云ふ、夫んなら
 買つたが何うせ死ぬ身だ不要ものか
 だ、最初の決心通りを

仲の親い二人の重婚を容解して、三月三月末東京から大阪、京都、須や明石や嚴島見物、別府、道後の海に贅を盡して歸り着いたのが秋もまた中旬でした。二人はそれ／＼好む／＼と話が纏つての三々九度芽出度人

と見に附けて厭だ淨室の念が酒
を失はぬはムシヤクシヤ腹の満まな
れど親兄弟の事も忘れて居たが死
成つて思ひ出し一運逢つてと徳島
里科種れた田舎の實家を訪ねると

の**岩雄**(當年二十歳)が小學校
等にて卒業し工業學校に入學する

だが學資に困つて居る最中
左様と知つたらアノ金を、と口
つても追つ附かない、何うなるも
死んだと思つて弟の爲めにセー一二

島篠原券番から今の名の若
一と名乗つて出ると聞くと陸軍大尉
の野上助水郎さんに非常に可愛がられ
て身交話しも出たけれど節ので悩んだ

約合はの縁とて歸はりして嫁いで居る
三十九年の九月花月
 の主人に抱へられ名も其の儘に者一と

名乗をも掛けると間もなく御寵愛を蒙つたのが前の内郡次官現の鳥取縣知事岡喜七郎さんでしたが四十一

年二月、年明けに一陸奥國に上りし、
候、第岩建の爲、四十二年の八月、
神戶

入るが、
 未枯れた花の色も香もない私と別れた朝、染み
 要に御最良と歎いて居りますで、ハッ
 ト一呼吸、絶けて置いて、堪へない此胸
 の呼吸は、流石である。

川上 埋立地へ落着

仁川の一大事件として社會の耳目を驚かし、仁川疑獄事件も終結せしより彼の埋立地一千六百二十九坪の九割は大正の發産家石近權右衛門氏の出資にて京城の丙山守太郎氏の名義を以て一昨

八日付六萬九千九百六十四圓八十七
 (坪)四十三圓の額にて地券の義
 替をなしたるより東拓に對する借入
 五萬五千圓利息及延滞の歩等一万三
 三圓七十錢並に四十三年度地稅五百
 十三圓三十八錢の全部を償済し取引
 に對する九百坪も引渡を了したるが
 民間へ提供すべき百五十坪及鹽本合

規則として五百米実以下の地券分額
取扱をなさざる事となり居るが故
記其他の手續を要すべきより且下研
中なら就れも兩三日中に暮若すべ

自轉車泥棒被縛
 仁川内例
 統計十村相夏なる者二月七日仁川警察
 役明究方李五龍(三)より自轉車一輛
 十三圓にて買受け爾來乘用し十八
 京城に來り市中を乘廻し居たる處通
 吏の人手を呼止め其自轉車を我が
 有にして去り市中遊蕩にかゝり物
 れば女は必す被らんとて北部警察

エに訴へられ取調を受けたるも全く朴
直記事より二月七日金十三圓にて買
かし事とて賣渡書も所持し居たれば
置放退せられたれど該自轉車は同業

二月、初旬、京城の某自轉車屋より一時、閉
 鎖の契約にて、借受け乗用し、千代田川に持
 出でければ、佐藤巡査が、李健榮、遇害者、
 共に轢き取關る處、遂に包みきれず去

餅を煎じ、料を賣換の價食の費に供したる旨、自白に及びければ早速捕縛して本署に引致し、尙取調中なるが、彼は常に酒

娘振り

(四)

伊集院静子
静さんは鹿児島市昭和町の産で現
在のた住居は中廊校四十二號十戸
である、れ父さんの茂君は李王家

の花園事務所に出頭せられた。おれはかね子さんと云つて有名な産婆である、本年三月當地高等女学校と卒業したのだ年は十七、花ならず、おれ父さん似た愛嬌に富んだ好ましい娘子さんである。母さんはいふやうな、おれが「おれ」をどうも何うかおれ醫師様の奥様に爲たいと肝煎つて御座るが、管人の静さん、おれ本こそ娘なれから孩兒で、叱ら

れさへ爲なれば弟と一様に雀を
差すのが一番面白と云ふ方だから
驕つ説と來たら男も跳足、倅つて
身体も強壯で墓動も活潑だ、と書
くとと轉婆の手に合はぬ娘の如だ

右にあらすず無類の便しに才
人頗眞い淡白したものだ。筑前
程程は廣瀬中佐が最も好きで、又最
も得意で、獨日の阿窓會に、これをも
れを彈奏して大に喝采を博したの
である。此の醉さんは一つ妙な病
がある、と云ふのは理髮店の前と
通るのを嫌がることだ。理由はア
ノ決のチャキ／＼と云ふのを聞く

と胎實を思ひ出す、すると胎が食
べたくなる、が十七の花娘として
は食べられないから口惜しいから
だと云ふのだ、匿しても駄目叔父
さんチャーンと知つて居るのです

入河と日所
 次は笹岡一實君長女
 笹岡京子
 去十日の如きも現に争國中を佐藤澤
 に認められ説諭を加へられたる程の巨
 介者なりと云ふ
 花魁引撮まる
 此の頃の
 氣にデブとして居られす浮れ出し
 中の新地の娼妓邊で無届どあつて十

日午後吉野町南廂上手道路に於て引
受提まつたのはれ多福樓より浪大事三
其静代ニ二三光孝市倉わいの(一)朝比
者に事始崎する(二)菊枝事大平きよの(一)

松岡もか(一)三吉事有田とみ(二)葉
 下野とよ(三)十郎事秋本あき(四)梅
 吉事宮園れと(五)達摩事深野しげよ(六)ど
 吉野事一原とみ(七)何れも告發さす
 此兩部要に於て夫れ一處割ある等

博物館月曜閉館 昌徳宮内料
博物館は從來月曜木曜の兩日は休館に居りしところ昨今花時の折柄とて觀覽者

●妙な所で懐微す
岐阜縣人常時青
坡町二十五番戸強力歌鈴木廣(二)一は
八月廿八日午後八時半頃長谷川町料理店職

養亭に至り店先にて煮出し酌婦の器
口を云ひたるを酌婦柴田はるゝ君持せ
んなら早く酌れと云ひたるより憤慨し
てはるを蹴打し南館署に突き出され目

下取關中

●即戒放免 長崎縣人當時住所不定土
方稱山喜代治(二)は十八日北郎臣恩
坊の加藤にて十八日無儀飲食を爲し
第二分隊に突き出され即戒放免

●優等最珍夏草苗分譲 信濃國下高井
郡佐佐木村北郎梅松辰卷氏は且つて該花
の培養に苦心を凝し斯界に優越する

大々輸送高砂赤千輪、日洋賣等を始め、數百種類を採掘し、僅岡野の人には荷造送費共賣費三十錢を賚れば、五色を一組とし、直に送附す。又秋菊菫希奇者は、賣費三十五錢を差らば、優等奇品五色五組と目録を附以上送附の者は、一組毎に

●風聞寺の法を執行　旭町一丁目の
同寺に於ては來る二十一日弘法大師御
影供大法輪會舉行説教並に接待等ありと
苗々の冒本社へ申來れり

●右割合にて申込めば奇品蘭苗を座へ送
右割合にて申込めば奇品蘭苗を座へ送

●演藝だより

●舞臺　東京福智堂活動寫眞十九日限
の演劇の時既に更に三日預日

延し左の寫眞を映寫すと
一チヌスの風景、二佛國史劇奈破
翁最後の旗上げ、三不忠魂の帽子圖、
日本喜劇八軒長屋全四場、浪六の作
五歐米人娛樂、六四田軍軍史劇常
陸丸琵琶人、七タム君の良心、八
軍事史劇大悲劇盲目大尉金六套、九

● 和蘭船 十日本意船此の船主より長尺四千十、二丈餘、船に喫着る● 歌仙佐渡 大車輪大砲にて大集を博せり朝聖二十日の代り藝遊は「敵討中露山打取」の通しなりと云ふ

● 記 民 意 圖 ●

▲ 元軍司令部 二等軍醫馬場覺二殿の「住所」存知の御方らば當欄まで御社下さい(發生)▲ 實て本欄に掲載を願

ひし飼犬は本町一中村醫師の御親切な御通知に依り無事歸り來り候に中
村先生の御厚意と深謝す（西小門外
松生）▲當地に朝顔種子無代母與

○新町讀み込都々逸(五)
南大門 浮世亭魚人

○皆増樓 歌
互に泣いたり笑ふたり

○玉家 可祝
しくまで讀みたり繰り返し

○清月樓 歌人
笑顔参り込むの文

○登りつりたる人形屋
うろ春風つ浮々

○第一樓支店 千鳥
バツ浮名が立つ千鳥

○京樓樓 袖子
人通しに相合せ

○一、口、癖、化物生

○東京勸業博覽會 褒狀受領
賞牌受領

○東京勸業協會製品大評會 領

○御簞笥各種

○御婚禮道具一式

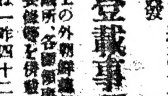

○上初簞笥店

○名譽發祥受領
キリシタン

○飲料 シートン

○煙草

○廣告

| | | | | |
|---|--|--|---|--|
| <p>大阪東區今橋二丁目</p> <p>西村義之商店</p> <p>城明治町一丁目 西村京城支店</p> <p>電話 二七二六番 電話 一九二七番</p> | <p>秘 密 嚴 守</p>  <p>仁川外海岸 取扱店 笠目仲實店 電話一六三番</p> <p>龍山本町三丁目 取扱店 西村出雲所 電話一二〇番</p> | <p>朝鮮總督府 節約募集</p> <p>警務總監部 屈濟 (交詢社式)</p> | <p>朝鮮紳士錄</p> <p>總クロス金文字入 菊版千ヘージ内外</p> <p>定價一冊 金五圓</p> <p>預約特價 前金二部 金參圓</p> <p>申込締切期日 七月三十一日</p> <p>登載事項 政治家、軍人、官吏、經濟財政家、實業家、工業家、農公衆、醫師、辯護士、教育家、宗教家、美術家、新聞記者、以上の外外國駐韓官署中央地方官廳軍司令部海關司令部商會、教育院、寺院、協會、俱樂部等會議場々各團體事務處及銀行賣社、學費、教育、寺院、協會、俱樂部等</p> | <p>肥田粉</p> <p>各製產地 新荷着</p> <p>店名榮隆</p> <p>寄三國陸路口特快 寄三十百</p> <p>所捌買元草煙製</p> |
| <p>御援助あらんことを謹みて公告仕候</p> <p>朝鮮京城内小門通り</p> <p>京城新報社出版部</p> <p>電話 六八三三番 電話 四四四六番</p> | <p>位の御賛同を得て其業を完致し候。爾來年と重なること、此間日韓併合の事あり世は一機に新となり従つて新舊人物の入替等多き之候故に於てか本社は時世の必要に應ずるが爲め敢て改訂増補第二朝鮮紳士錄を発刊すること仕候思ふに紳士録が半島及び内地に於て信用調査實際取引等に汎く使用せらるべきは過去に経験に徴して明かなること有之候が故に江蘇の各位幸に本社のお志を諒せられ續て豫約御申込に相成本社お回の果に御援助あらんことを謹みて公告仕候</p> | <p>梅毒根治の新藥六〇六號を左の規定に依り治療を施行す</p> <p>一 治療せんとする者は先づ梅毒の有無を調べるべし。ツベルチン反応し、新陳代謝促進に病癒有無の驗證(ア)ツベルチン反應)を行ひ検査し、之を確固にして注射せよ。</p> <p>一 本治療は梅毒の秘密に存心し、希望者は本人若くは家族を以て當院(本野郎四丁目)に預けんとす。</p> <p>(電話二四四番) 贊化病院</p> | <p>月世日記</p>  | <p>大坂東區今橋二丁目</p> <p>大阪取引所仲買人</p> <p>西村義之商店</p> <p>城明治町一丁目</p> <p>西村京城支店</p> <p>電話 二七二六番 電話 一九二七番</p> |

京城南大門通
新井藥房
電話一〇六八番九〇四
振替口座韓國 十六

●定價
壹圓貳拾錢的特價八十錢
外郵稅八錢に割引
發行所
東京神田淡路町(電話本局一八五)
登丁目登番地(振替東京二五六六)
統文館
本館美福堂

出張所 京城明治町
(電話一五)

M.
京畿、平壤、龜尾、上谷、山、本浦、鮮山、高麗支店、

三省九廿九日
千葉丸廿四日
仁川本町丁
合發秋田商會船部
會社